OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大阪大学低温センターだより No.111 裏表紙
Author(s)	
Citation	大阪大学低温センターだより. 2000, 111
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/22187
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

編集後記

私事で申し訳ないのですが、ぼくは電気製品が好きでよく買います。特に、斬新なアイデア、機能性、操作性、デザインに引かれて、ソニー製品をついつい買ってしまいます。ソニーといえば、創業者の盛田昭夫氏と井深大氏の両氏を忘れる事はできません。盛田昭夫氏は、大阪大学理学部物理学科を卒業した、大阪大学の偉大な卒業生の一人です。井深大氏は、早稲田大学理工学部電気工学科を卒業し、在学中から「走るネオン」の発明で、その才能の一端を示してました。盛田昭夫氏は1999年の10月３日に、井深大氏は、1997年12月19日に亡くなられました。日本が誇る偉大な人材が亡くなられ、誠に残念です。両氏は、ソニーの前身である東京通信工業を1946年に設立しました。両氏とも疑いようもない偉大な研究者であり技術者でしたが、どちらかというとビジネス面に長けていた盛田昭夫氏が営業を担当し、製品開発は天才肌の井深大氏が担当していたと聞きます。井深大氏の会社設立趣意書を読むと、現在でも、その考え方の先進性と斬新性には、驚かされます。（興味のある方は、http://www.world.sony.com/JP/CorporateInfo/History/prospectus.htmlを見て下さい）先日、井深大氏の事を書いていた、短い記事を読んでいて、井深大氏の言葉にハッとさせられました。井深大氏は、井深語録と言われる程、研究者・技術者にとって含蓄のある重要な言葉を数多く残しています。その記事には、「アイディアが重要なのではない。一つのアイディアをどうやって、具体的に実現していくかが重要なのだ。」という井深語録が書いていました。近年、アイデアの重要性が特に強調されていますが、現実問題として、いくらアイデアがあっても、それが実現できなければ何も始まらないという事です。アイデアとその実現の間には、高いポテンシャル・バリアーがあり、それを乗り越える事は大変であり、そして乗り越える事が重要であると井深大氏は言ってるのです。誠に重い言葉です。時として、このポテンシャル・バリアーは、自分以外の多くの人達のサポートによって、そのハードルの高さを認識できていないという事があります。低温センター副センター長の大貫惇睦先生が言ってますように、液体ヘリウム供給は、多くの方々による大変な努力の上に成り立っています。特に、液体ヘリウム液化室・低温センター技官の方々の過度の労働には、頭が下がる思いで、この場をかりて感謝したいと思います。万が一、液体ヘリウムが一切供給されないという事態が、今後長期にわたり起きてしまうという事を想定すると、井深大氏の言葉の重さを再認識させられます。最後に、大阪大学を退官された大阪大学名誉教授の大塚穎三先生の言葉をもって、編集後記を終わらせたいと思います。「ヘリウムの一滴は、血の一滴である。」

（小堀裕己）

大阪大学低温センターだより　第111号

平成12年7月　発行

編集責任者　邑　瀬　和　生

発　行　者　大阪大学低温センター

吹田分室　大阪府吹田市山田丘2番1号

電話（06）6879－7985

豊中分室　大阪府豊中市待兼山町1番1号

電話（06）6850－6691

印　刷　所　阪東印刷紙器工業所

大阪市福島区玉川3丁目6番4号

電話（06）6443－0936（代表）

目　　次

No. 111

巻頭言

低温が開く新しい世界 …… 權田　俊一 …… 1

研究ノート

ナノスケール新炭素素材とその低温物性…… 工学研究科　梶井　博武
吉野　勝美 …… 2

重い電子系の純良短結晶育成 …… 理学研究科　大貫　惇睦 …… 10

談話室

低温センター豊中分室における寒剤供給の現状と課題
…… 低温センター　竹内　徹也 …… 16

運営組織 …… 20

お知らせ …… 21

あいさつ

低温センター副センター長に就任して …… 大貫　惇睦 …… 22

表紙説明：人口オパール（直径100nmの周期多孔構造炭素のSEM像。）（本文p.6参照）